



高田 本山 だより

専修寺 京都別院

発行所

真宗高田派宗務院内

三重県津市一身田町2819

電話 059-232-4171

FAX 059-232-1414

HP www.senjuji.or.jp



発行部数 33,000部

輪番
安田真源



京都別院の歴史は慶長十年、第十二世堯慧上人が間之町御池上ルに一堂を創建し高田坊と称し、末寺五箇寺は山内坊として一身田より御供をしたことより始まります。

その後元和三年火災により消失し、河原町二条上ルに移り再建し本誓寺と称し、本山の掛所（現在の別院）となり、明治十五年に専修寺別院と改称されました。境内奥地には歴代ご法主の宿所に当てられる御殿も建てられました。昭和二十二年の火災により本堂御殿等すべて焼失しました。現在の京都別院は昭和三十

六年宇多野音戸山に移転。度重なる火災にあいながらも長い歴史と多くの宝物を有しています。

その京都別院に私が輪番として就任したのが、昨年の五月。その時の印象は、墓地は荒れ放題で、山門、本堂、庫裏と一度も修繕された様子もなく、しかも駐車場もありません。翌六月には桜町天皇勅作一光三尊仏御開扉法要がありましたが、参拝者はごくわずか。これらの現実を知ることが私の輪番としての第一歩でした。

以来、京都別院再興の願いを持ち、まずは墓地の整備をしました。

これからお寺として同行に喜んでもらえ、参拝者が増えるよう精進していきたいと思っています。

その上で、別院として、末寺や同行とともに力を合わせて仏法興隆に開山聖人七百五十回報恩大法会に尽くしたいと思っています。

鐘の音はここから 町の人々へも

宝物館主幹 平松令三



朝な夕な一身田の町には本山の鐘が鳴り渡っていますが、その梵鐘が高田派第十五世堯朝上人の七回忌供養として慶安五年（一六五二年）、作られたものです。このことはかつてこの欄で紹介しました。今回は梵鐘を吊り下げている鐘楼について申しのべることにしましょう。

まずこの鐘楼は高い石壇の上に建っています。お城の石垣を思わせるように、綺麗に石をならべたいわゆる切石積の石壇で、高さは二m五〇cmもあります。だから鐘の音が遠くまで聞こえるのです。

建物はず太い丸柱四本を四隅に建て、その丸柱の両側に少し離して八角の柱を添えて建てています。ですから柱は合計十二本となります。こんなに頑丈な構造にしたのは、巨大な梵鐘の重量に耐えさせるためでしょう。この鐘楼のもう一つの特徴は、

各々の柱の根元近くを貫いている「地覆」と呼ばれる構造材で、普通の「貫」とは違って極めて太い材で、しかもその先端に「練り形」と呼ばれる彫刻が施されていることです。この彫刻は奈良東大寺のそれとほぼ同形式です。そのほかこの鐘楼全体が東大寺の鐘楼（国宝）によく似ています。東大寺のをモデルとしたのでしょうか。

さてそこでの建築年代ですが、平成六年に解体修理工事が行われた際、鬼瓦に正徳元年（一七一一）のヘラ書と、柱の腰部を貫く材に享保三年（一七二八年）の書銘があることがわかりましたので、そのころの建築とわかりました。

その鐘楼が建ってから、境内には大きな御影堂が完成し、立派な山門が立ちますと、「こんな貧弱な鐘楼ではバランスがとれない」という声が起こり、派内寺院は再び一致協力して募財し、現在の立派な姿となったのちがいありません。



御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）
電話 (075)371-0854・8181～2番
FAX (075)344-2701番
振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344

京仏壇京仏具・ご本堂内装
お仏具ご修復・お納骨壇



高田本山御用達

京仏具

小堀

本店／京都市下京区烏丸通正面上る ☎(075)341-4121(代)
東京店・練馬店・福岡店・札幌店・小堀京仏具工房

無料進呈！ お役に立てて下さい

◆成功談と失敗談に学ぶ 新築・改築のノウハウ「100のヒント」

お申し込みはこちらから フリーダイヤル(本店) 0120-27-9595



親鸞聖人の ご生涯

比叡山での修行

九歳の春、得度を終えられた聖人は、範宴少納言公という名まえをいただき比叡山に登られました。

比叡山は京都の東北部に位置し、標高八四メートル、周囲百キロメートルに及ぶ大きな境内は、東塔、西塔、横川の三地域からなっています。今では、バスや自家用車を利用して、登るのに便利になりましたが、当時は、険しい山、深い谷ばかりで、容易に近づけませんでした。そのうえ女人禁制の修行の山でした。

延暦四年(七八五)伝教大師最澄は、この山中に草庵を結び、諸經典の研究に没頭し、三年後、延暦七年に一乗止観院を建立したのが延暦寺の始まりです。天台宗の総本山で、平安時代、日本を代表する佛教の学場でありま

した。最澄は、人はみな平等に成仏できると説き、持つて生まれた特質を生かしておのおのが菩薩となるべく修行を積むことを求めました。「論湿寒貧」といわれ、湿気がひどくて冷たい山坊に籠り、清貧に甘んじ、法華經の論議に精を出し、さまざまな修行を続けるのでした。「延暦寺三大地獄」(「掃除地獄」「看經地獄」「回峰地獄」といわれるほど修行は苛酷なものであります。中でも、「回峰地獄」は、無動寺谷を拠点として、山上、山下を七年間巡拝するもので、その距離は、地球一周と同じ四万キロメートルにも達するという苛烈なものであります。

そして、日本仏教の多くの宗派が、この比叡山から生まれました。浄土宗の法然、真宗の親鸞、臨済宗の栄西、曹洞宗の道元、日蓮宗の日蓮などを輩出しているのです。

範宴(親鸞)は、九歳の出家から二十年間、西塔の常行三昧堂を中心に、堂僧として断惑証理(惑いを断ち切つて悟りを得る自力の道)を目指して、日夜厳しい修行を重ねられました。

しかしながら、修行すればするほど、我が心の醜さ、弱さが見えてきて、どうにもなりませんでした。まさに、煩惱具足の凡夫の身の発見であつたのでした。

それではこのような人間でも、仏になる道はないものかと思案され、聖徳太子のゆかりの地を訪ねられ、参籠して、夢告をいただき、それによつてこれからの生きる道を求めていかれるのでした。

(教学院第三部会)

石井殿? 一身田?

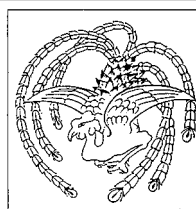
江戸時代の滑稽本『東海道中膝栗毛』は、弥次さん喜多さんが江戸からお伊勢参りをする話です。物語の後半は伊勢国が舞台で、高田本山近くのいろいろな場所で珍道中が行われます。

高田本山近辺の上野(現在の津市河芸町上野)で、弥次さんは『膝栗毛』の作者十返舎一九になりすまし、本山の御堂を横に見ながら

お組板直しに鯉の鰭ふるはこれ佐用姫の石井でんかも

と狂歌を一句詠んでいます。石井殿は一身田という地名を聞き間違えたものだと思われます。

皆さんがお住まいの町も出てくるかもしれませんよ。私は天蓋寺の和尚が、お十念の後でくしゃみをした所に住んでいます。(廻)



仏壇・仏具
ぬし与

ホーオーが目印!

六代目 (株)ぬし与仏壇店

桑名本店・四日市店・鈴鹿店・蟹江店・大田店・阿下喜店

第2世 真佛上人750年忌 第3世 顕智上人700年忌

だいおんえ

大恩会の厳修

どんしゅう

本寺専修寺
高田本山専修寺

平成20年3月28日～30日

平成20年4月18日～20日



① 真佛報恩塔
しんぶつほうおんとう

埼玉県蓮田市の南端、馬込辻谷に「南無阿弥陀仏」とお名号が彫られた、高さ四mになる大きな板碑が立っています。板碑は鎌倉時代中期頃から室町時代に広まった石碑の二種です。

延慶四年（一二二二）旧暦三月四日、真佛上人の五十四回忌にあたって弟子の唯願が建てたもので、「真佛報恩塔」と呼ばれています。関東を中心になくさんの板碑が作られました。その中でも「真佛報恩塔」の高さ四mは屈指の大きさを誇ります。

当時のお金で百五十貫文（二七トンのお米に相当）のお金を集めて作られたといえます。現在の米価にあわせると二千万円を超える金額になるかも知れません。

第二世 真佛上人特集



しれません。

② 真佛上人のご業績

『教行証文類（後序）』の中で、親鸞聖人は師である法然上人から『選択本願念仏集』の書写と上人のお姿を描くことを許された上に、法然上人自ら題字と銘文、聖人のお名前（釋の綽空）を書いて下さったことを詳しく書いておられます。師の著書を写すことが許され、嬉しくて忘れられない出来事だったことが、その文面から伺われます。

先生が書かれた本を弟子が書写することが許されるということは、先生の教えを正しく理解しているといういわばお墨付きをいただくことを意味しており、非常に名誉なことでした。

国宝の『三帖和讃』や重要文化財の『教行証文類』など、高田本山に残されているたくさんの真佛上人が書写された宝物は、上人が親鸞聖人から深い信頼を受けた証と言えます。特に国宝の『三帖和讃』は親鸞聖人の筆跡をそっくりに写されており、戦前までは親鸞聖人の直筆だと考えられていたほどです。

現在は真佛上人が書写されたものに、親鸞聖人がふりがなや左訓などを書き加えられたものと伝えられています。



ご法事のご会食 ご予約承り中

～少人数から団体のお客様まで是非ご利用ください～



お薦め商品（精進+和食ミックス）

本山会席

各種献立よりお選びいただけます。

◇精進料理 1人前 4,000円（税別） ◇本山会席 1人前 3,500円（税別）

お問い合わせ・ご注文は

人気商品 高田本山流 精進料理

◇自宅までマイクروبスでご送迎（5名より14名様まで）

〒高田青少年会館 TEL.059-232-6079

世の中安穏なれ 仏法ひろまれ

社寺建造物彩色、障壁画、仏画、絵伝、頂相画、天井画などの制作と修復・復元承ります。その他石工、木地、漆、箔押、鋳金具など、ご相談下さい。

ものづくりの観点から、あらゆる職種の本物の職人による法物制作のお手伝いをします。

絵所

〒514-0114 三重県津市一身田町2819

TEL:059-232-4171 FAX:059-232-1414

（本山宗務院内 絵所）

絵所頭

安川如風



御本山絵所

にょふう

本寺大恩会

第2世真佛上人750年忌
第3世顕智上人700年忌

両上人のお迎えする

本寺専修寺参拝の旅

平成20年

3月29日～31日
(2泊3日)

宿泊地

3月29日(潮来)潮来ホテル

3月30日(鬼怒川)あさや

募集人員 400人

旅行代金 47,000円

募集締切 平成20年2月20日

〈企画〉

真宗高田派専修寺宗務院

津市一身田町2819番地

電話 059-232-4171

担当 高藤英光

〈旅行・実施〉

(株) JTB 中部

〈問い合わせ先〉

JTB 中部津支店

津市北丸之内12番地

電話 059-228-0203

担当 村山和夫



③ 佛光寺に伝わる真佛上人

真佛上人は高田派だけでなく
佛光寺派や興正派などでも第二
祖にあげられていることは『本山
だより』六十九号にも書きました。
『佛光寺法脈相承略系譜』と
いう資料には、このように書かれ
ています。

親鸞聖人は越後流罪の後、建
暦二年(一二二二)に二度京都に帰り、
山科に興正寺(現在の佛光寺)
を建立します。真佛上人は鎮守
府將軍平国香の子孫、下野の国
司の嫡男で俗称を椎尾弥三郎春
時と言いました。嘉禄元年(二二

二五)に親鸞聖人の弟子となり、
安貞元年(一二二七)には親鸞聖
人の命により興正寺二世となら
れます。荒木の源海上人に譲ら
れるまでの五年間住持された後、
下野高田専修寺二代目住職と
なります。ちなみに専修寺は
嘉禄二年(一二二六)に建立され
ています。

高田に伝わる話とはずいぶん
と違いますが、真佛上人が若く
して親鸞聖人の後継者となり、
重要な役割を担われたことが伝
えられています。

特別声明公演
真宗高田派～伝承500年の響き～

しょう みょう
聲明

日時 平成19年10月12日(金)

開場 午後1時

開演 午後1時半より

会場 三重県総合文化センター大ホール

チケット販売所 三重県文化会館チケットカウンター

高田青少年会館

高田本山進納所

当日券 1,000円 前売り券 900円(販売中)

問い合わせ先 高田短期大学仏教文化研究センター

TEL 059-232-2310



緑と共に75年
三重県知事免許認可
(一級造園技能士)造園・庭園管理

山本造園

代表 山本 進一郎

津市栗真小川町 869-77

TEL 232-7453

FAX 232-7453



高田本山御用達
三重県仏教会御推薦

石碑
記念
燈籠



高級御影石専門店

御影石材株式会社

(石に御用の方は) イレニゴヨオ
☎ 0120-142540

本店 津市広明町(影見寺門前)
☎ 059-224-1700(代)

リレー法話

今橋 勝宣

住職になり五年目を迎えました。住職になる以前より市

による区画整理事業が進められており、変わり行く町並みの中、樹齢五百年以上の「太子淵の松」が参拝に訪れる同行をいつでも悠然と出迎えます。

この松がいつまでも生き長らえてくれればと思いたいところですが、人間の都合ばかりにはいきません。樹木医に診てもらったところ大部分の根が枯れてきているとのことでした。

無常という言葉はほとんどの方は聞いたことがあるかと思いますが。無常とは、常で無いということですので、全てのものは移り変わっていくと言う意味ですが、私達の多くがこの言葉を聞いて思い浮かべるのは、人生の無常ではないでしょうか。

私もお話しさせていただく中で、暗いイメージで使う場合が多いと反省しています。



移り行く時の中で別れもあれば出会いもあり、自分も成長し、子どもも成長し、また新しい命が宿ります。そして無常だからこそ私達は生きて行けるのではないのでしょうか。しかし、この世が無常ではないとする

ならば、いかなものでしょうか。時が止まり、写真の中に閉じ込められた状態です。何も変わらない世界では私達は生きて行く事は出来ないでしょう。私達はとても弱い生きものです。

太子淵の松

昭和34年6月18日市指定天然記念物
浜松市教育委員会

樹齢500年と推定される老木で、幹の目通り3.9m、樹高13mの黒松の独立木で樹勢はよく、地上4mから数枝に分岐して四方に広がっている。

光福寺は、新川と馬込川の合流点にのぞむところにあり、この川から聖徳太子の像が出現し、これを寺内に安置したということで、このあたりを太子淵と呼んでいる。

自分の愛着があるものは、そのままとか変わらないで欲しいと願ってしまいます。この常であって欲しいと求めてしまうところに苦悩してしまいます。無常を受け入れることができてこそ、生きていることを実感し喜び、脈々と受け継がれてきたこの命の大切さを気付かせていただけるのではないのでしょうか。

(浜松市 光福寺住職)

お墓

寺標

墓地移転

霊園開発造成

高田本山御用達
石匠位認定店
全国優良石材店、認定店

創業100余年

株式会社

ISHIEN STONES

ストーンズ

石仙

(旧(有)山本石材店)

四日市市近鉄阿倉川駅前

☎0593-31-4114

サイコーエイジ

高田本山御用達

井筒法衣店

京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)

(〒600-8503)

電話 (075)351-1234(代)

フリーダイヤル ☎ 0120-075-720

フリーダイヤルFAX 0120-075-490

これからの本山諸法会

◆讃佛会

九月二十日～二十六日

お彼岸のお参りを讃佛会といひます。仏さまのお徳を讃えて、ご先祖の恩に感謝して、法縁を喜ぶ法会という意味です。朝七時と昼十一時半の二回、勤行とお説教が勤まり、中日の二十三日には法主殿の御親教がございます

◆資堂講法会

十月一日～三日

正式には永代資堂講法会と言ひます。

資堂講は、普く有縁の方々が加入できる講として設けられ、教化の一端も担っています。

◆納骨堂法会

十一月三日・四日

親鸞聖人のお徳を偲ぶとともに、私たちの大切な人も聖人の御廟のそばにおいてあげたいという願いから、本山にご遺骨（分骨）を納める本山納骨の習慣が出来ました。その後、昭和三十八年に個人の納骨壇にご遺骨を納める納骨堂が造られました。本堂でのお勤めに先立って、

法主殿または法嗣殿とともに多くの僧侶が山内を行列で進み、御廟と新納骨堂・第二納骨堂を参拝されます。



◆秋法会

十一月五日～十日

春の千部法会と同じく、進納所で講千部に加入いただいた方をご招待して勤まる法会です。

本山内の賜春館（明治天皇が宿泊された建物）で法主殿のご対顔をあおいだ後、本堂にて参詣します。

これからの本山諸行事

◆第四十五回檀信徒研修

十月二十五日

（午前九時受付）

大恩会を来年に控えて、今回は「真佛・顕智上人」をテーマに開かれます。鈴鹿市深

藕寺住職浦井宗司師のお話やビデオ鑑賞、班別の分散会で意見の交換や、質疑応答を行います。

参加申込は宗務院教学にて受付けます。



編集後記

繁華街の飲食店に勤めている友人が、こんなことを言いました。

「残った食材をそのまま捨てると、ホームレスがここに食べ物があることを知って近所に住み着くから、食器用洗剤をかけて食べられなくしてから捨てている。」

思わず私が

「食べられるものをあえて食べられなくすることに抵抗ない？」

◆教学院研究発表大会

十月三十一日

（午前十時開会）

高田派の研究機関、教学院の各部会ではそれぞれのテーマを持って研究を行っています。当日はそれぞれの部会からの代表5名に、応募された一般の僧侶が、二十分の持ち時間で行ってきた研究について発表を行います。また午後には講師を招いて特別講演も行われます。聴講は無料です。

会の集まりが高田派婦人連合会です。毎年春と秋の二回、一泊二日で研修会を開き、法式作法や法話、講演を聴聞したり、座談会でコミュニケーションを深めたりします。秋の研修会では、初日に小旅行をすることが多く、今年も計画中です。参加ご希望の方は宗務院教学課へ申し込んでください。

◆秋季婦人連合研修会

十一月七日・八日

（午前十時開会）

別院や一般寺院にある婦人

と聴くと、

「ホームレスが近所に住み着いて、冬に焚火をされることを思えばそんなこと言っていられないよ。」

だそうです。

飲食店で営業中に食材をきらせることは許されないから、常にも余裕をもって用意をしま

す。その日調理したものは翌日に持ち越せないから、毎日多かれ少なかれゴミになってしまします。現場で様々な問題を経験している彼の意見を、それ以上否定することはできませんが、何かが心に引っかかって仕方がありません。

寺院名

